



泉新代表の下で党再生に 全力をあげる。引き続き、 “人づくりなくして国づくりなし”

12月6日に臨時国会が召集され、総選挙後初めての論戦が行われるなど、7期目の活動も本格的に始まりました。立憲民主党では泉健太代表の下で新しい体制が発足しました。来年は、夏に参議院選挙が行われる政治決戦の年になります。総選挙の結果をしっかりと総括し、党再生に向けた取り組みを急がなければなりません。

私は、まずは党の地力をつけることが必要だと思えます。私たち総支部長が共産党など他党との選挙協力頼みではなく、小選挙区で勝ち抜くための活動を徹底し、地方議員の数を増やすなど党勢拡大を図らなければなりません。次に党としての政策力を磨きあげることです。政権交代前の民主党では次の内閣を組織し、各分野でシンクタンクなどと連携しながら政策立案を行っていました。私たちが実現を目指す政策をもっと練り上げ、次の総選挙では骨太の政権構想を打ち出す必要があります。そして、国会対応です。野党が存在感を示すには国会論戦を通じていかに国民の皆様のアピールできるかが重要です。野党第一党として政権を厳しくチェックしていく行政監視機能を発揮することも大切ですが、わかりやすい対案や修正案を打ち出し、建設的な議論を行う姿勢こそが求められています。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、日本の社会が抱える多くの構造的な課題が浮き彫りになりました。今、政治に求められているのは、“コロナ後の社会”に向けて明確なビジョンを示すことです。私はこの中心に「教育立国」を掲げたいと思います。人口減少、超少子高齢化、デフレ経済の長期化、国際競争力の低下など難しい問題を乗り越え、国が成長していくためには、「人」の力しかありません。誰もが意欲があれば、生涯を通じて学ぶことができる社会を実現しなければなりません。このため、超党派の国会議員と民間の有識者による「教育立国推進協議会(仮称)」を立ち上げる予定です。引き続き、“人づくりなくして国づくりなし”の信念の下、全力で頑張っております。



りゅう 衆議院議員 元文部科学副大臣
笠ひろふみ

